

第1章 日本の姿 (教 120~131 ページ)

1 世界の中での日本の位置

○ 緯度・経度で見た日本の位置 世界の他地域からみた日本の位置

国の位置を説明するには、( ) 度や ( ) 度や、まわりの大陸や国との位置関係であらわす  
赤道からどのくらい北・南にあるか      ロンドンからどのくらい東・西にあるか

日本の位置は、どこからみるかで、表現が変わる。

緯度では	およそ北緯 ( ) 度 ~ ( ) 度	などと同じくらい
経度では	およそ東経 ( ) 度 ~ ( ) 度	などと同じくらい
大陸との関係でとらえると		
アメリカ合衆国からみると		
韓国や中国からみてみると		
ロシアの東部からみると		

2 時差でとらえる日本の位置

○ 地球上における位置と時差の関係

地球は 24 時間で 1 回転している = ( ) ° 回転している

1 時間あたり  $360 \text{ (度)} \div 24 \text{ (時間)} = ( ) \text{ °}$  回転していることになる

経度 15° あたり、( ) 時間の差ができる ← ( ) という

世界の国々は、基準となる経線 = (標準時 線) を決めて、標準時を設定

日本は、東経 135° の経線

日本は全国いつも同じ時間      アメリカには ( ) つの標準時      ロシアには ( ) つの標準時

太平洋上の経度 180 度の経線 = 日付変更線 → 日付を調整する役割

<時差の求め方>

① 東京の経度 = 標準時子午線の東経 135° と カイロ (エジプト) の経度 = 東経 30° とする

① 東京とカイロの経度の差を求める ( ) - 30 = 105

② 15 度で 1 時間の差ができるので、 ( )  $\div 15 = 7$       7 時間の時差があることになる

② 東京の経度 = 標準時子午線の東経 135° と ロサンゼルス (アメリカ) の経度 = 西経 120°

① 東京とロサンゼルスの経度の差  $135 + 120 = ( ) \text{ °}$       東経と西経の世界の場合は足す

② 15 度で 1 時間の差ができるので、 ( )  $\div 15 = ( )$       ( ) 時間の時差がある

### 3 日本の領域と領土問題

- 日本の領域 → ( ) 陸地 ( ) 一定の範囲の海 ( ) 領土と領海の上空

日本では、海岸線から 12 海里

日本は、四つの大きな島 ( ) と数千の小さな島々が 3,000km にわたって細長く連なっている島国 北端と南端の緯度の差は約 25 度 東端と西端の経度の差は約 31 度 国土面積は、( ) 万km<sup>2</sup>

日本の西端 ( ) 島 日本東端 ( ) 島 日本南端 ( ) 島 日本北端 ( ) 島

- 海の資源の利用 領海の外側 = ( ) 水域 ← 200 海里 (約 370km) 国連海洋法条約 船・航空機の通行、海底ケーブル・パイプラインの敷設は沿岸国以外も OK

日本近海の魚・天然ガスなどの地下資源は、日本にとって重要

- 北方領土 → ( ) 島 (北端)、国後島、色丹島、歯舞諸島

日本人の元島民と現島民のロシア人との交流 ロシアに対して北方領土の返還を要求

- 竹島 → 17C 日本人が漁を行う場所 1905 年 島根県に編入 → 1952 年～ 韓国が自国の領土と主張・対立

- 尖閣諸島 → 1895 年 沖縄県に編入 1972 年 日本に復帰 → 1970 年代～ 中国の領海侵犯がおこる → 2012 年 日本が国有化し領土の保全

### 4 都道府県と県庁所在地 (別紙)

日本の略地図のかき方 (別紙)

### 5 さまざまな地域区分

- 都道府県をもとにした地域区分 7 地方区分 (別紙)

明治までは、地方区分の単位として「国」や現在の地方にあたる「道」が使われていた

さつまいも 現在 ( ) 県 伊勢えび 現在 ( ) 県 伊予かん 現在 ( ) 県  
加賀友禅 現在 ( ) 県 讃岐うどん 現在 ( ) 県 越後平野 現在 ( ) 県

- さまざまな地域区分 区分の目的によってさまざまな分け方がある

カップうどんのだしの違い → 北海道、( )、( )

サッカー地区予選 → 北海道地区大会 東北地区大会 関東地区大会 北信越地区大会 東海地区大会  
近畿地区大会 中国地区大会 四国地区大会 九州地区大会

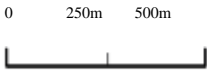
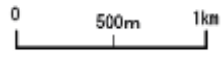
その他、衆議院比例代表ブロック、天気予報の地方区分、NTT の範囲、ヤマト運輸の地域区分などがある

同じ地方・県でも、地域によって特色に違いがあるので、さらに細かくわけたほうが特色をとらえやすい

中部地方 → 東海地方 (太平洋側)、( ) 地方、北陸地方 (日本海側)

福島県 → 浜通り、( )、会津

<縮尺>

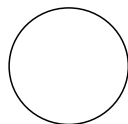
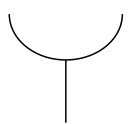
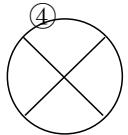
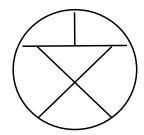
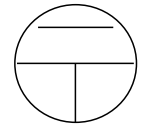
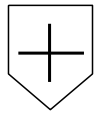

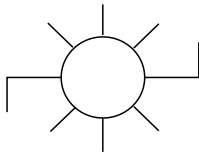
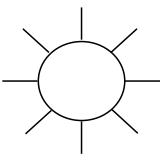
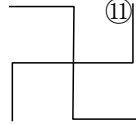
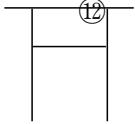
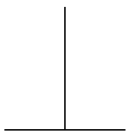
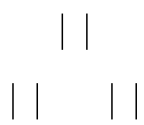
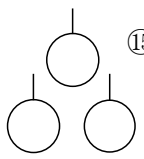
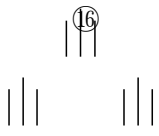
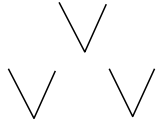
縮尺	地図上の表記	縮尺の意味	地図上で4cm
2万5千分の1	$1 : 25000$ 	地図上で1cmの 実際の距離は (            ) cm = (            ) m	実際の距離は、  m
5万分の1	$1 : 50000$ 	地図上で1cmの 実際の距離は (            ) cm = (            ) m	実際の距離は、  m

(2万5千分の1の場合)

1cmが (        ) mだから、 (        ) m × 4 (cm) で            m

<地図記号>

次の地図記号の意味を書きましょう。

- ①  (        )
- ②  (        )
- ③  (        )
- ④  (        )
- ⑤  (        )
- ⑥  (        )
- ⑦  (        )
- ⑧  (        )
- ⑨  (        )
- ⑩  (        )
- ⑪  (        )
- ⑫  (        )
- ⑬  (        )
- ⑭  (        )
- ⑮  (        )
- ⑯  (        )

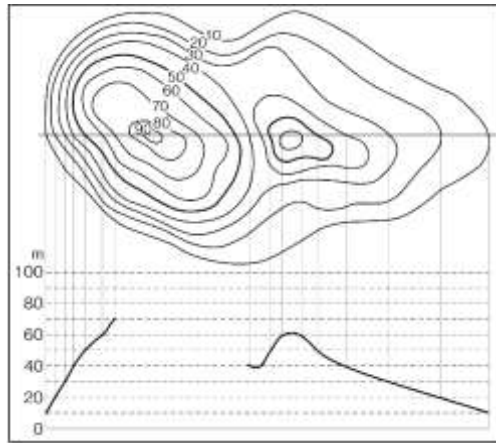
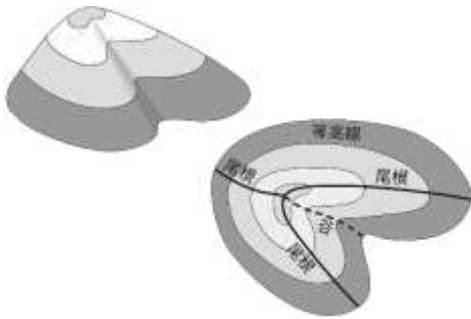
<等高線>

種類 \ 縮尺	5万分の1	2万5千分の1	記号	2万5千分の1の地形図の例
計曲線	100m		——	
主曲線	20m		——	
補助曲線 <sup>※1</sup>	10m	5mか2.5m <sup>※2</sup>	- - - -	
	5m		- - - -	

※1 必要に応じて用いられます。 ※2 等高線の数値を表示しています。

<等高線から読み取る谷と尾根>

標高が高い側から見て、等高線がVの字に曲がっているところが谷で、逆の方向に曲がっているところが尾根になります。



断面図を完成させ等高線の間隔と地表の傾斜の関係を確認しましょう。→

<空中写真と地形図>



空中写真のア～ウは、教科書 141 ページ⑤の地形図ではどのような記号で表されていますか。( )に地図記号を記入しましょう。

ア ( ) イ ( ) ウ ( )

## 地形図に親しもう

教科書 p273④「現在の練馬駅周辺のようす」を見てやってみよう。駅から距離を計る際は、駅の記号の真ん中から計ることとします。

- 1 練馬駅の南口を出ると交番があるが、その南東には警察署があり、その北側のとなりには（ ）がある。
- 2 練馬駅から見て、豊島園は（ ）の方角にある。
- 3 練馬駅の（ ）の方角で、直線距離で 375m には区役所があり、その 100m 以内には、保健所、病院、（ ）がある。
- 4 豊島園駅の東 250m 以内の場所には（ ）が複数ある。
- 5 練馬駅の南約 1km のところに交番、神社、寺院が並んでいるが、その西 250m 以内のところに（ ）がある。
- 6 桜台駅から南に 375m 行くと、北東から南西方向に大きい道路が通っている。この道路沿いには交番が（ ）カ所あり、郵便局が（ ）カ所ある。
- 7 桜台駅から南に直線距離で 1125m ほどのところに複数の（ ）と病院がある。
- 8 練馬駅から北に直線距離で約 1.5km のところにある学校のとなりには（ ）が広がっている。
- 9 練馬駅と桜台駅の距離は、約（ ）m である。

第2章 世界と比べてみた日本の地域的特色 (教 132~153 ページ)

1節 自然環境の特色

1 世界の地形

→高くけわしい山地や ( ) 広大でなだらかな平原

地震や火山活動が活発なところ = 山地や山脈がちなところ = ( ) 帯

世界の二つの造山帯

( ) ・ ( ) 造山帯 →アルプス山脈、ヒマラヤ山脈、インドネシア山脈へと続く

( ) 造山帯 →太平洋をぐるりと取り囲むようにつらなっている

日本はなぜ地震が多いのかな？

→日本が ( ) の境界付近に位置していて、これらがぶつかり合う力によって地震が発生しやすい

地震・火山活動がほとんどないところ →オーストラリア大陸の平原 北アメリカの中央平原 シベリア高原  
雨、風、氷河によってけずられてできた

2 日本の山地・海岸と周辺の水

<陸地>

日本の国土面積の ( ) %が山地 国土面積の約25%の平野に、人口の約 ( ) 割が生活している

(日本 ) →本州の中央部 3000m級の山々 ( ) 山脈、木曾山脈、( ) 山脈

( ) →「大きなみぞ」という意味 多くの断層が集まっている ここを境に折れ曲がっている

<海岸>

( ) 海岸 →山が海にせまり、岬と湾がくり返す入り組んだ海岸

長い砂浜が続く ( ) 海岸 ( ) 礁に囲まれた海岸

港や工業地帯を広げるための ( ) や農地を拡大するための ( ) を行うところもある

<周りの水>

日本列島周辺の浅くて海底が平らな海 → ( ) 水深 8000mを超えると ( )

↓  
鉱産資源がとれる

暖流 → ( ) ( ) 海流) と対馬海流 寒流 → ( ) ( ) 海流) とリマン海流

暖流と寒流がぶつかる場所 → ( ) 目 ←栄養豊富で魚が集まるよい漁場

3 日本の川と平野

<川> 大陸の川と比べると、海までの距離が ( ) いので流れが ( ) である

最も流域面積が広い川 → ( ) 川 最も長い川 → ( ) 川

<川がつくる地形> →川は山をけずり、土砂を運びながら下流に向かう 流れが遅くなったところに土砂がたまる

山から盆地・平野にたどるところ→ ( ) 地 川が海に流れ出るところ (河口部) → ( ) がしやすい

水はけがよいので果樹園に利用 末端にはわき水を利用して集落ができた 水がしみこみずらいので水田に利用 現在は住宅

川・海沿いの平地より一段高い平らな土地 → ( ) →水を得ずらいので、水田ではなく畑や茶畑・住宅に利用

4 日本の気候

日本の気候は、本州、九州、四国が ( ) 帯 北海道が ( ) 帯 (冷帯)

<特色> ・ ( ) の変化がはっきりしている ← ( ) 風が、夏に湿気、冬に寒気を運んでくるから

・南北にのびているので、北と南で気温が大きく異なる。

・日本列島の中央部に山地・山脈が連なっているため、( ) 側と ( ) 側で降水量が異なる

・6月ごろの ( )、台風、冬の雪などの影響で、世界の中でも降水量が多い国である。

<日本の気候区分 (6つ) >

・北海道の気候 →冷涼 特に冬の寒さが厳しい 1年間を通して ( ) が少ない

・日本海側の気候 →冬に ( ) が多い ←冬の大陸からの北西の ( ) 風のため

・太平洋側の気候 →夏に ( ) が多い ←夏の太平洋からの南東の ( ) 風のため

・内陸の気候 → 1年を通して ( ) が少ない 夏と冬、昼と夜の気温差が大きい

海から離れているので、季節風によって運ばれる水分が少ない

・瀬戸内の気候 → 一年中温暖で ( ) が少ない ← 季節風が、中国山地や四国山地にさえぎられるため

・南西諸島の気候 → 1年を通して雨が多く温暖である ← ( ) の通り道 近くを黒潮が流れている

### 5 日本のさまざまな自然災害

<地震と火山> 噴火、火山灰や溶岩の噴出、火砕流

地震が多く火山の活動も活発 ← ( ) 造山帯に属しているから

山くずれ 液状化 津波

<気象災害>

梅雨や台風による大雨 → 洪水や土石流 ← 山の斜面や川底の石や土砂が一気に押し流されること

強風や高潮 ← 海沿いで起こる 低気圧で海面が持ち上げられ、満潮と重なって大量の海水が陸地に上がってくる

雨が降らないときは、( ) の被害 夏の気温が上がらず、稲の生育が悪いときは、( ) となる

東北地方で、( ) が吹いたときなど

大雪が降ったとき ← 交通網や建物への被害 まちの孤立

6 自然災害に対する備え → 被害を防ぐ ( ) と 被害を減らす ( ) のための取り組み

公助 (国や県、市町村の救助や支援) ・自助 (自分自身や家族での救助や支援) ・共助 (住民同士の救助・支援)

地震の揺れや川のはらんを予測した ( ) マップを活用 → 身近な環境で起こりやすい災害を知っておく

## 2節 人口の特色

1 世界の人口分布と変化 世界には、( ) 億の人々が生活している

人口密度が高い地域 = 東 ( )、南 ( )、ヨーロッパ ← 農業・工業が発達している地域の都市部

人口密度が低い地域 = 砂漠、寒冷地、高地 ← 自然環境が厳しく、作物の栽培や工場立地に向かない地域

1950年代以降、世界の人口が急速に増加 ← 医療技術の進歩、衛生・栄養状態の改善による死亡率の低下

特にアジア・アフリカで増加

国による人口構成の違いをみる資料 = 人口ピラミッド ← 男女別年代別の人口割合をグラフにしたもの

発展途上国 = 富士山型 低年齢層の人口割合が高くなっている 死亡率が下がると ( ) 爆発が起こる

先進国 = つぼ型 出生率と死亡率が低い

2 日本の人口の変化と特色 日本の人口 ( ) 億 ( ) 万人 (世界で10番目に多い)

<日本の人口>

少子高齢社会 = 平均寿命は世界で最も高い水準 ( ) 率は低下

老年人口 (65歳以上の人口) が全体の ( ) % をこえた (2015年) → 労働力不足 社会保障問題

<日本の人口分布>

平野や盆地の都市部 ( ) 圏や札幌・仙台・広島・福岡・北九州などの大都市に集中

東京 ( ) ( ) → ( ) ← 住宅不足 交通渋滞 満員電車

市街地の再開発 郊外の住宅地開発 職場の郊外への移転 新しい鉄道の整備

都市部へ若い人が流出した農村や山間部 → ( ) ← 老年人口の割合が増加

教育・医療・防災などの活動の維持が困難

道路の整備、企業を誘致して働く場を確保する、移住者への情報提供や住宅提供

Iターン Uターン

3節 資源や産業の特色 4節 地域間の結びつきの特色 (教 154~166 ページ)

1 世界の資源エネルギー

<( )資源> = ( )石、原油・( )・天然ガスなど  
↓  
金属の原料 電力や動力のエネルギー資源

工業がさかんで、自動車・家電製品が普及すると、資源の消費量が多い = 日本 アメリカ 中国 インドなど  
鉱産資源の生産 ←埋蔵量が多い国で生産

原油 → ( ) アメリカ ロシア 鉄鉱石 → 中国 オーストラリア ブラジル

石炭 → 中国 インド インドネシア 天然ガス → アメリカ ロシア イラン

高度な工業製品の生産に欠かせない、リチウム プラチナ チタン ニッケルなど = ( )

資源の安定的な確保が必要 = 世界各地で開発競争 採掘できる地域が限られている

特にたくさんの資源が必要な中国 → ( )大陸での資源開発に力を入れる

採掘技術の発達 → 地下深く・海底も開発

再生可能エネルギーに注目 ← ( )化の進行を食い止めるため

風力・太陽光 ( )燃料の使用  
↑  
とうもろこしやさとうきびが原料

2 日本の資源・エネルギーと電力

<資源を( )にたよっている日本> ← ~1960年代、石炭、銅などを国内で採掘していたが、安い海外産の輸入へ

原油・天然ガス ← 西アジア・東南アジアから 鉄鉱石・石炭 ← オーストラリアなどから

ロシアとの交流を深め、原油や天然ガスの開発 → 資源の輸入先を増やす取り組み → なぜでしょう？

レアメタルの確保 ← 不要になった家電製品やコンピュータからの回収 = ( )・( )化

<生活を支える電力> 火力発電 約( )% 水力発電 約8% 原子力発電 1%未満  
再生可能エネルギーによる発電 約1.5%

持続可能な社会を実現するために → 再生可能エネルギーの活用

資源の消費を抑えて環境に配慮した省エネルギー技術の活用

3 日本の農業・林業・漁業とその変化

<農業>

日本の耕地の半分以上は ( ) = 稲作がさかん

稲作がさかんなところ → 北陸・東北地方・北海道地方

( )栽培がさかんなところ → 日当たりが良く水はけがよい斜面 ( )地

野菜の栽培がさかんなところ → 大都市周辺 = ( )農業 = 大消費地に近い 輸送費がかからない

→ 交通の発達で、はなれた場所でも栽培 = それぞれの気候を生かして生育を調整

促成栽培 や 抑制栽培

日本の農業の特色 = せまい農地でたくさんの収穫を得る = 面積当たりの収穫量が多い = 価格が高い

→ 安い外国産農産物の輸入が増加・畜産の飼料も多くが輸入 = 食料 ( )率の低下

<林業・漁業>

森林にめぐまれた日本 秋田すぎや木曽ひのきの生産がさかんだった → 安い外国産木材の輸入が増加

→ 林業の就業人口が減少 高齢化も進行

日本の近海 → 暖流と寒流がぶつかる好漁場 = ( )目

各国が ( )的経済水域を設定 → ( )漁業)や遠洋漁業は困難 → 水産物の輸入増加

とる漁業 から 育てる漁業への転換

養殖業 栽培漁業



## 4 日本の工業とその変化

日本は工業がさかんな国の一つ

<日本の工業>

明治時代以降 **軽工業** → **重化学工業** → **先端技術産業** へ発展していった  
繊維工業 鉄鋼・自動車・石油化学 IC・医療機器・ソフトウェア開発

日本の工業地帯 = 京浜 中京 阪神 北九州 → 関東～九州地方北部にかけて帯状の工業地帯  
臨海部で、輸入資源を利用した石油化学工業や製鉄業が発達 **太平洋ベルト**

高速道路網の整備 → 内陸に工業団地を整備 → **輸送機械工業**や**電気機械工業**を誘致 → 工業地域が内陸へ拡大

<日本の工業の変化>

日本は、資源が乏しい → 資源を輸入して製品を製造して輸出する = ( **貿易** ) をおこなってきた



1980年代～ アメリカ合衆国やヨーロッパ諸国との間で ( **摩擦** ) = 輸出を抑えなければならない  
現地生産を行う → 商品の市場となる国や ( )・土地の安い国へ進出

この結果、一部の工業では国内生産が衰退 = ( **の** ) ( **化** )

## 5 日本の商業・サービス業

<産業の分類>

第1次産業 = ( ) ( ) 漁業

第2次産業 = ( 業 ) 建設業

第3次産業 = ( 業 )・卸売業などの ( 業 ) や ( 業 )

運輸・郵便・宿泊・飲食・医療・福祉・教育

現在の日本では、第3次産業の就業割合が非常に高い → 約70%

人口が多く経済活動が活発な東京や観光客が多い ( ) や ( ) では特に高くなっている

<商業の変化>

駅前や都市の中心部の商店街・デパート → 郊外の大きな道路沿いの大型ショッピングセンターへ  
テレビやインターネットを利用した、店をもたない商業も拡大している

↓  
情報通信技術 (ICT) 関連産業の拡大

医療機関や福祉関係のサービス業は、全国的に均等に分布するように配慮

## 1 世界と日本の交通・通信網

<世界との結びつき> 現在の世界は、国境をこえた物・人の移動が活発

海に囲まれた日本 = 世界有数の海運国 → 原油・石炭・鉄鉱石の輸入や大型機械の輸出

→ タンカーやコンテナ船による ( **輸送** )

IC (集積回路)、貴金属、鮮度が必要な魚介類・生花など軽くて高価な物の輸送 → ( **輸送** )

航空貨物の増加 航空路線や便数の増加 → 日本から海外へ出かける日本人の増加

↓  
仕事や観光で日本を訪れる外国人の増加

羽田・成田は、香港、ソウル、バンコク、シンガポールとアジアの **ハブ空港** としての利便性を争っている

↓  
たくさんの航空会社が乗り入れ、乗り換えに便利な大規模空港

<国内の交通網>

( 期 ) ～ 都市間を結ぶ交通網を整備してきた → 新幹線 高速道路 地方空港

特に高速道路網の整備 → 内陸部の工業化 郊外の大型ショッピングセンター トラック輸送による商品の流通

大都市圏の鉄道網の発達 → 乗降客数世界一 ← ( 地 ) の利用者減少 鉄道・バス路線の廃止や減便

<通信網の発達と情報通信技術 (ICT) の発達> = **通信衛星**や**海底ケーブル**のおかげ

パソコン・携帯電話・スマートフォンの普及 → インターネット・国際電話の利用者急増

→ 情報を受け取りやすい 通信販売や遠隔診断の利用 しかし 利用できない人との **情報格差**も